

令和3年度兵庫県（姫路市）地域社会柔道指導者研修会
【中学校武道必修化特化型】

期 間：令和3年8月3日（火）・4日（水）

場 所：兵庫県立武道館

参加者：11名（すべて中学校教員）

派遣講師：磯村元信六段、向井幹博七段



平成24年度から毎年開催されていたが、令和2年度はコロナの影響で中止となり、2年ぶりの開催となった。柔道を専門としない教員でも安全で楽しく授業を進められることを目的として、研修が進められた。

【1日目】

開講式に続いて磯村講師が講義を行った。はじめに体育授業で柔道を指導している参加者に不安な点などを聞いた。

「柔道経験がないので、自分がやっていることが正しいのかわからない」

「大学の授業で柔道をやったが楽しくなかった。生徒に柔道の楽しさを伝えられるか不安」

これらに対して磯村講師は「柔道経験がないことを気にする必要はありません。技を身につけさせることより、生徒に柔道を好きになってもらうことを意識してください」と柔道の持つ楽しさを伝えることの重要性を説いた。

さらに、楽しい授業づくりのポイントとして以下の内容をあげた。

- ・礼法と受け身ばかりの授業は楽しくない。
- ・技術指導だけではなく、会話と工夫を取り入れる。
- ・教えすぎない。生徒に考えさせる。

午後は向井講師が実技指導を行った。講道館で指導にあたる向井講師は、「初心者の先生にとって技の示範は不安があると思うが、講道館HPに多くの動画があるのでぜひ活用してほしい」と映像の利用も効果があると説いた。続いて、体育授業では運



動量の確保も大事であると説明し、柔道の動きにつながるトレーニング・2人1組で互いの肩に手をのせて、自由に動き回る柔道ダンスなどを紹介し、参加者も楽しげに汗をながした。

技の指導では、「膝車」と「体落とし」を解説し、以下のポイントを伝えた。

- ・力で倒すのではなく、体を捌いて相手のバランスを崩す。
- ・正解を示すのではなく、生徒に考えさせる。
- ・頭を打っていないか、周囲と距離をとるなど安全面の配慮を忘れない。

【2日目】

午前中は磯村講師が「評価の考え方と実際」について、資料をもとに講義した。参加者に評価について困ることがあるかと尋ねると、「積極的に発言する生徒が少ない」「どこを見ればいいのかわからない」「何ができたらAなのか基準がわからない」など不安な意見が続出した。

磯村講師からは、「技能だけで評価するのではなく、授業を休まない、積極的に取り組んでいるかなど、様々な観点から評価することが大切です。例えば、今日の授業で誰が一番がんばっていたかを生徒に選ばせるなども評価の手助けになると思います」とアドバイスを送った。

午後は向井講師による実技指導が行われた。前日の復習から、大腰、背負投、出足払、袈裟固など年間9時間の授業時間で指導可能な技を解説した。

「どうして襟をつかむのか、抑え込まれたときにどうやって逃げるか、生徒に考えさせながら先生もいっしょに柔道を学んでいくことにより、生徒にあきさせない授業ができると思います」とまとめた。

最後に磯村講師が「柔道の授業にこうしなくてはいけないというものはありません。先生方が工夫して生徒が楽しく柔道に取り組むようになれば、それが正解です。2日間で学んだことをぜひ指導現場で生かしていただきたい」と講評を述べ、全日程が終了した。

▽参加者の声

「今年から柔道部の顧問になり、柔道教室に通い始めました。研修会への参加は初めてでしたが、勉強になることばかりで楽しく柔道を学ぶことができました」（男性・中学校教諭）

「柔道授業の思い出は、受け身がひたすら痛かったということだけでした。講師の先生方の話は非常にわかりやすく、質問にも丁寧に答えていただき、これから柔道を教えていく上での不安がすこしなくなりました」（女性・中学校教諭）